

Q18 休み時間中の問題と思われる行動への対応

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

A君は、中休みや昼休みになると真っ先に図書室に行きます。大好きな鉄道図鑑を見るためです。最近はこの図鑑が大のお気に入りです。たとえ他の子が「見せて」と言っても貸してあげることができません。また、いつもの場所に図鑑がないと怒ってしまいます。休み時間が終わっても図鑑に夢中になっていて、教師が呼びに来てもなかなか教室に戻ることができません。

自閉症の子どもは、たとえば鉄道や自動車、本人の好きな物を収集するなど、特別な興味のあるものに強いこだわりをもつことがあります。また、場所や生活時間等、自分なりの決まりにとらわれたり、変更することを嫌う傾向もあります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校1年生の知的障害を伴う自閉症の男児。休み時間になると、毎日校庭の水飲み場に行って遊んでいます。そのたびに水が出しっぱなしで、砂を入れて詰まってしまったこともたびたびあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 「水飲み場は水を飲んだり手を洗ったりする場所」ということを、視覚的にわかるように絵カードを貼ったり、蛇口に下げたりして知らせる。
- ② 好きな水遊びを違う方法でできるように、バケツやじょうろを用意し、使ってよい水の量を約束して決める。
- ③ 「遊びは休み時間だけ」「蛇口を忘れずに閉める」等の約束をして、守れたらシールをはるなど本人の自覚を促すようにする。

〈このような場合の支援 2〉

小学校4年生の高機能自閉症の男児。休み時間になると必ず図書室へ行き、恐竜図鑑を見て過ごしています。この図鑑は1冊しかないため、他の子は読みたいと思っても我慢しています。また、低学年の子とは取り合いのけんかになることもあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ④ 他の子にも人気のある本は、複数用意する。また同じ種類の他の図鑑も可能な限り複数用意する。
- ⑤ 「〇〇小学校のみんなで読む本」、「一度読んだら次は別の人が読みます。」等の標語や約束を、その図鑑の見やすい箇所に貼っておき、個別に約束やマナーを説明する。
- ⑥ 気に入ったページやイラスト等をいつも見ているようなら、その箇所やページをコピーして、いつでも見られるように工夫する。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子